[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4290100116		
法人名	有限会社　クレイン・ケア		
事業所名	グループホーム　晴海の丘二番館		
所在地 （電話番号）	長崎県長崎市蚊焼町215番地1 （電　話）095－833－7033		

評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年11月3日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】（平成19年　4月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18年　10月　1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	9　人	常勤8人，非常勤1人，常勤換算9．75人	

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨	造り
	2 階建ての　階　～	1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	1,200　円		その他の経費（月額）	3,000　円
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	100　円	昼食	250　円
	夕食	350　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1	名	要介護2	3	名
要介護3	4	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢	平均　83.6 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	晴海台クリニック、柴原歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上に建つホームは、日当たりもよく、ホーム前の菜園や庭木は手入れが行き届き、外観もホーム内も明るい雰囲気である。ホームから少し下ると、新興住宅地やスーパーなどがあり、ホームの裏手には、海や島が見え、夕方にもなると、夕日が映え、写真を見ているような、1日をのんびり過ごしたくなるようなホームである。管理者はじめ職員たちは、グループホームの本来の意義、決して大きい施設の下請けではなく、特別な場所でもなく、認知症を伴った高齢者の集合住宅と考え、自分たちはケアをしているのではなく、高齢者と共同生活をしている、と念頭に置き、更に地域に貢献できることも考えながら、利用者が住みなれた土地で、最期まで、その人らしく過ごせるよう、日々の努力をされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）**
	今回、開設初めての自己評価・外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回が初めての自己評価・外部評価ということもあり、職員に自己評価の説明は行ったが、運営者・管理者が記入し、職員の意見等を聴取し自己評価に反映させている。次回のために、職員がいつでも見られる場所に置き、意識を持つようにしている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）**
	同法人の同地区のホームの運営推進委員会のメンバーに依頼し、同ホームのメンバーにもなっていただき、初回の会議が開催された。初回の会議だったため、開設からの状況、職員の異動、前回の別ホームの課題の報告を行い、これからの課題について検討した。ご利用者の参加もあり、意見も出され、介護方法の見直しにつなげている。ホーム立上げの際には、頻繁に相談していたが、現在は特に問題もなく、推進会議の議題や報告のやり取りを行っている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）**
	家族の思いとホームの介護方法の違いから要望が出ることはあるが、開設1年ということもあり意見は少ない。家族との関係は現在構築中である。運営者・管理者だけでなくスタッフでの対応が出来るようにと、普段からご家族と会話は多く持つ機会をつくり、その中からご家族が知りたいことを把握している。また、毎月の利用料はホームに持参して頂くなどの方法により、直接会って近況等の説明を行い、お小遣い帳のチェックもしていただく努力をしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）**
	職員や利用者は、地域のお祭りや、近隣の学校や施設の行事に参加し、地域の幼稚園や中学生の訪問も受け入れ、ホームの草刈の際には地域の草刈も同時に行うなど、積極的に交流が持てるよう心掛けている。ホームの前を散歩コースにしている方や、隣近所の方とは日常会話をしている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（ ■ 部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には特に地域での暮らしを掲げてはいないが、生まれ育った土地と慣れ親しんだ地域において、その人らしく人としての権利を全うできる人生を送ることを目的とすることを運営方針に掲げており、地域密着型サービスを反映したものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はボードに掲げ、毎月のミーティング時には冒頭に話し、理念の意味の再確認をし、日々の現場での方向性の確認をしている。言葉面だけではなく、その意味の理解、いつも行っていることが理念に通じていることを気付いてもらうために、利用者だけでなく職員も楽しく一緒に生活し、笑顔を引き出せるよう関係者との話しを持つように心掛け、お互いに注意しあっている。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員や利用者は、地域のお祭りや、近隣の学校や施設の行事に参加し、地域の幼稚園や中学生の訪問も受け入れ、ホームの草刈の際には地域の草刈も同時に行うなど、積極的に交流が持てるよう心掛けているが、ホームの前を散歩コースにしている方や、隣近所の方とは日常会話をしているが、地域全体との密着した関係までは取れていない。	○	地域の方から「施設」という目で見られているので、集合住宅と捉えてもらい、日常的な一般家庭のような会話を持ちたいと考えられている。今後の取り組みを期待したい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見等は聴取し自己評価に反映させているが、今回が初めての自己評価・外部評価ということもあり、職員に自己評価の説明は行ったが、運営者・管理者のみで実施した。	○	次回の自己評価までには、職員を含めての自己評価が出来る体制が取れるようにしたいと考えられている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の同地区のホームの運営推進委員会のメンバーに依頼し、同ホームのメンバーにもなっていただき、初回の会議が開催された。初回の会議だったため、開設からの状況、職員の異動、前回の別ホームの課題の報告を行い、これからの課題について検討した。ご利用者の参加もあり、意見も出され、介護方法の見直しにつなげている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム立上げの際には、頻繁に相談していたが、現在は、課題等も内部解決できているため、推進会議の議題や報告のやり取りを行っているだけで情報提供などは行っていない。	○	市町村に事業所の考え方や活動内容等の情報提供を継続的に行っていき、サービスの向上に取り組んでいかれることを期待したい。
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員をはじめ運営者にいたるまで、普段からご家族と話をし、その中からご家族が知りたいことを把握している。ご家族には直接会って近況等の説明を行い、お小遣い帳のチェックをしていただくことを、ホームの方針としているので、毎月の利用料は振込みではなくホームに持参して頂いている。また、お一人のご利用者のご家族が県外に居られ、毎月の面会が難しいため、次長が電話で報告したりされている他、年に数回ホームに来られた際に、じっくりお伝えしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時は声掛けをするようにし、普段の会話は多く持つようにしている。家族の思いと施設の介護方法の違いから要望が出ることはあるが、開設1年で家族との関係は構築中で、意見は少ない。法人で苦情解決受付書・結果報告書を準備し、運営者・管理者だけでなくスタッフでの対応が出来るようにと努力している。	○	家族にまだ遠慮があるので、もっと意見が出しやすい関係、雰囲気作りをしたいと考えられている。今後の取組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、月に1回カンファレンスを行い、その中でケアの方法等を話し合い、不安や不満を言いやすいように働きかけ、職員のレベルにあった対応をしている。また、普段から声掛けをし、食事会など、職員親睦の場を設けストレスの軽減に努め、離職を最小限にするようにしている。新規職員を採用したときは、指導を充分に行い、利用者が心に傷をつくらないようにしている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の「資格を取りたい」という意思を汲み取り、自らが講師となって内部研修を行い、職員が参加しやすいようにと、1ヶ月間同じ内容で毎週金曜日に行うなどの努力をされている。また、外部研修は、内容に応じて、会社が費用を負担したり出勤扱いにするなどし、職員が外部研修を受けやすいように配慮しているが、職員毎の教育計画は作成されていない。	○	職員の経験年数やレベルにあった教育計画の作成をしていくなど期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流・連携の必要性は認識しているが、協議会などには参加しておらず、職員の個人レベルでの相互訪問などはあるが、事業所としての訪問などはされていない。現在、長崎市南部地区でグループホームの職員に限らず、他職種との協同で認知症ケアのトータル的サポートの連絡会を計画している。	○	まずは、同業者との交流の機会が多く持てるような場への、職員参加にむけての取組みに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症の進行により単身での生活が困難となり、ホームへの入居が決まった利用者を職員が訪ね、家族同席のもと「遊びに来てください」と見学をすすめ、契約・サービス開始後も、短時間の通所から始めて、徐々に時間を延ばし、対応も同じ職員がするようにした。また、サービス開始後も、顔なじみの方に同行していただいたり、頻繁に訪問していただくなどし、馴染みながらのサービス利用に努めた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意で、以前より行っていた手芸や歌、昔ながらの風習などを教えていただいたり、料理などを作る際に、励ましの言葉をいただいたり、自ら手伝ってくださったり、指導していただいたりしている。また、利用者の表現する言葉のみならず、行動の中にも教えられることも多く、利用者の感情や思いに寄り添うことが出来るように心掛けている。教えて頂いたことに対して、職員より感謝の気持ちを何気ない言葉で伝えたときに、言葉はなくとも笑顔を見せて下さったり、温かい言葉を掛けて下さったりし、喜怒哀楽を共に感じるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、サービスを利用しながら、どのように暮らしていくことを望んでいるのか、一つ一つの生活行為について、自分でどこまでしたいと思っているのか、どうしてほしいと思っているのかを把握している。把握が困難な利用者も、利用者の行動・表情から思いを汲み取り、新たな問いかけ・言葉かけをしたり、物品を呈示したりして、利用者の様子を伺うなどし、今の気持ちを把握するよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状況・思い・生活習慣などを踏まえ「利用者自身の計画」という視点で作成しているが、介護計画には、行う事、行っている事、行える事のみを記載している。その為に体調的な面から、地域で暮らすことが計画に盛り込めていない利用者がいらっしゃるが、原案作成後、家族に見ていただき、利用者のかかりつけ医、事業所の協力医療機関の医師・他専門職に相談したり、助言を求め、地域の視点を工夫している。計画作成の際には、家族の意見や職員の意見を聞く場を設けているが、意見が出ず、計画に反映できていない利用者もいる。	○	家族や職員の気づきや意見が、全利用者の計画に反映されるような工夫をしていくなどを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは短期目標の設定時期に合わせて3ヶ月で見直しており、利用者や家族の要望・状態に変化が生じた場合に行う時もあるが、設定した時期が来るまで行わない時もあり、利用者・家族・関係者と話し合いを持った際に新たな気づきや意見が出された場合でも、全利用者に対して、臨機応変に計画の見直しを行っているとは言えない。	○	臨機応変に見直しが出来るようにと担当制を導入し、原案作成後、家族の来訪時か電話にて意見の聞き取りをし、意見を反映して作成するようにと考えられている。

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や、通院介助、個別の買い物、顔馴染みの方への面会時の送迎、体力的なことから外出が困難な方は美容室に訪問していただいたり、徘徊のあるご利用者に対しては、外出を制限せず、職員が付き添って毎日数回の散歩をするなど、事業所での多機能性を活かした工夫をされている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を優先的に受診していただいているが、往診をしていただけないご利用者については、往診をしていただけるからとご家族が協力医療機関に変更された方もいらっしゃる。かかりつけ医・協力医療機関ともに、いつでも相談できる体制が構築されており、看取りを含めて24時間体制の対応が出来るようになっている。通院介助は職員が行っているが、職員と医師の会話から、利用者の病的なものに対する理解や、日ごろの職員のケアを知り、医師の意見に対するご家族の意見も聞きたいと、ご家族の同行も依頼をしている。		
19	47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、予め、ご家族に「ホームの指針」を渡し、意向を聞き、どのような状態まで、ホームで対応できるのか、かかりつけ医・協力医療機関・他専門職などの関係者、及び職員と話し合い、利用者に状態変化があった場合は、繰り返し話し合いをしている。看取り開始の際には、施設長・ご家族ともに、病院へ行き、医師に説明して頂き、ホームで対応できること・できないことなどを含めて、看取り開始のプランを作成し、ご家族に説明し、ご家族・医師に同意を得ている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室入室時のノック・声かけなどの基本的なことから、排泄介助や入浴介助の同性介助、申し送りは入居者や来訪者には聞こえないようにするなどし、食べこぼしの処理も、さり気なく職員が食べこぼしたかのように振る舞い、利用者の自尊心に配慮するなどしている。また、「個人情報保護規定」の内部研修も行い、個人情報に関するものは、人の目に触れないようにし、メモ類でもシュレッダーにかけるなど、個人情報の保護に努めている。		
21	52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや希望をよく聞き、起床・就寝、食事、入浴、レクリエーション等の日課について、生活のリズムが取れるよう、声かけ・誘導は行うが、無理強いはせず、本人の選択に任せ、出来る限り柔軟に対応するよう努め、「どのように過ごしたい」という希望を特に表現されない利用者には、これまでの生活の状況やペースなどを家族に尋ねたり、表情や態度・行動などにより何を求めておられるのかを汲み取り、その人らしい暮らしの支援につなげている。時間がかかる利用者についても、本人のペースを尊重し、健康に支障のない範囲で、利用者が納得されるまでゆっくり最後までしていただいている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にもホーム前の菜園で食材の収穫をしたり、調理の下ごしらえ、味見、下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器の片付けなどに参加していただいて、力の発揮をしてもらうようにしている。食事を楽しんでいただくために、旬の食材や菜園で採れたものを使用し、職員も同じ食卓につき、必要な介助を行いながら、同じものを食べ、楽しい雰囲気を作るようにしている。また、時折外食をしたり、バイキング形式にして気分転換もはかっている。		
23	57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は日曜以外は毎日お湯をはり、本人の希望で入っていただいているが、入りたがらない利用者にも声かけなどを工夫し、週に2回は入っていただくようにしている。入浴時間や湯温も体に負担のかからない範囲内で、利用者の希望に対応している。また、菖蒲湯やゆず湯、入浴剤も採り入れ、入浴を楽しんでいただくように工夫している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個人個人のその日の体調に合わせ、これまでの生活暦や趣味を活かして裁縫や食事の準備・調理・後片付け、、植物の手入れ、体操の声かけ、計算などを行っていただいている。重度の腰痛により部屋で過ごすことが多い方や、長時間の集中が難しい方にも声かけを工夫し、役割や楽しみごとが出来るようにしている。		
25	61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	人員体制の問題等もあり、日常的な外出はできていないが、馴染みの方に会いに行ったり、近所のお店におやつを買いに行くなどの外出や、他施設の行事・町内行事などへの外出は出来ている。計画を立てていない時でも希望があれば外出できるようにと、8人乗りの車を購入した。	〇	日常的な外出が出来るよう、同法人の他施設の計画も勘案しながら計画を立てていきたいと考えられている。今後の取り組みに期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者ごとに落ち着かなくなられる時間帯や傾向などを予め把握し、職員が作業する場所や立つ向きを工夫したり、職員同士で声かけしあったりして対応している。定期的に外へ出てしまう利用者には職員が同行し、無理な制止などは行っていない。		
27	71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への届出をしての避難訓練等は年二回行っているが、職員だけでの訓練も、防火管理者が毎月計画を立てて行い、毎月10日20日末日にはコンセントの差込口や換気扇の埃など、発火原因になりそうなものの点検も行っている。運営推進会議の場でも、地域住民と合同での訓練を要望している。以前、台風による停電で利用者が興奮状態になったことから、発電機を購入し、ミキサー食などにも対応できるようにし、食糧等の備蓄も三日分用意している。さらに3人分を用意し、災害時には地域の高齢者などを優先に場所と食料が提供できるようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カレーが嫌いな人は肉じゃがへ変更するなど、個別の好みに対応し、摂取量なども把握・記録しているが、カロリーチェックなど専門的な観点からのチェックは、まだ出来ていない。飲水量については、記録までは行っていないが、大体の量の把握をし、夏場などは好まれる飲み物を提供して、通常よりも多めに摂ってもらうようにしている。	〇	利用者ごとに1日全体を通じた食事量、バランスの確認と共に、カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐための仕組みを検討されることを期待したい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は南西向きで、窓も大きくソファーやカーテンの色も明るく、全体的に明るい雰囲気である。夏場はよしず等を使用して光の強さを調整しつつ、季節感を出すなどしている。飾りつけ等は利用者とともに行われ、シンプルで季節感があり、また、窮屈に感じないようにしている。リビングは広く使えるようにバリアフリーにし、ソファーはソファーベッドにもなる。テーブルも昇降式で、座る位置や利用者に合わせて高さ調整ができる。トイレの便座も車椅子からそのまま移乗できる向きにし、手すりの高さも利用者が立ちやすい高さに工夫されている。音の大きさや空気の澱み、臭いにも気をつけている。台所も対面で作られており、ご飯の炊ける匂いや音などで五感の刺激も出来るように工夫している。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、エアコン、カーテンは備付けであるが、その他は利用者が使い慣れたものを持ち込んでいただいている。利用者や家族には、「入居される際に、借りられた部屋なので、ご自由にアレンジして下さい。」とお願いしている。ネームプレートも本人の希望にあわせ外し、代わりに利用者が気に入られている物などを、目印代わりに付けたりして、一般家庭と変わりないようにしている。		